

# TECH with HEART

障がい者雇用版 Vol.9



2019年4月、農場に新入社員2名が配属され、早いものでもう1年が経とうとしています。今回は、この2名について個々の特性や対応、入社時から現在までの変化について、ご紹介します。

## 農場社員の成長とこれから

■文字を認識することが困難な学習障がいを持つAさん

Aさんは、入社当初から作業指示や作業手順を正確に理解でき、ハサミやピンセット等の道具を使った作業も問題なく行っていました。作業速度も少しずつ早くなってきており、例えば収穫作業は、1区画25分かかっていたものが、20分で終わるようになりました。

Aさんの課題に、文字の読み書きがあります。Aさんのような障がいを持つ方の文字の見え方は、反転したり、歪んで見えたり、文字が動いて見えたりと、人によって様々なようです。

農場では、作業指示板（ホワイトボード）を使って作業指示を行っています。



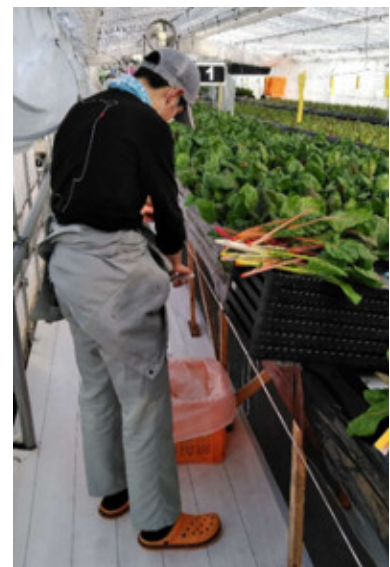
各自が作業指示板を確認しながら作業をすすめますので、Aさんに対しては、写真や絵に置き換えることを検討しました。しかし、毎日作業指示板の文字を指さしながら、作業内容の説明を繰り返し返した結果、1〜2週間で、文字と作業内容が一致するようになり、今では、作業指示板を確認して、ひとりで作業をしています。



Aさんは色々なことが出来るようになっていたい、やってみたいという意識がとても高いです。本人の能力もそれに見合ったものが備わっていると思います。実際「書く」ことに関して自分ですべて見たいと申し出があり、少しずつですが見よう見まねで見本と同じ様に書く事が出来るようになってきています。

Aさんが現状出来ない事は、経験したことがない、又は、その機会がなかっただけかもしれません。もちろん特性的に学習困難な事もたくさんあります。その部分はサポートの仕方を変えなくてはいいませんが、職場だけではなく日常生活でも様々な訓練を繰り返し、成功体験する事が本人の自信に繋がるのだと思います。

しかし日常生活の部分まで雇用している企業が入り込む事は到底できません。福祉施設や支援機関、家庭と連携をとり合い、日常生活での訓練もしてもらう事も必要になってきます。そこでの経験が彼らにとって職場で安定して働き続ける事に繋がると考えています。





■比較的重度の知的障がいを持つBさん

Bさんは、ピンセットなどの道具を使った作業や、同時期に複数の作業を習得するのが難しかったため、作業を限定して割り振りました。

入社当初は「ハウス内の清掃」「定植（苗を植える）作業に使うピンセットの訓練」この2つを徹底的に行いました。

雑巾を絞るのも、絞り方を知らず片手で握るように絞っており、家庭の方にも協力してもらい、家庭でも正しい雑巾の絞り方を訓練してもらいました。ピンセットについては、豆が入っている容器から豆をピンセットで1つずつ摘み、空の容器に移すという訓練を約半年行いました。初めはポロポロ落としていましたが継続して訓練した結果、実際に定植作業が行える程度にはピンセットを扱えるように成長しました。

しかし実際に定植作業を行ってみると、別の事に気を取られてしまったりと集中して作業を行う事が出来ませんでした。

作業中の見守りや指導、家庭からも指導してもらい、以前よりは比較的集中して作業を行えるようになりました。管理者は、作業状況を見守り、常に声がけをするようにしています。

現在は、主に定植作業と収穫物の運搬、清掃作業等、付帯作業を中心に行っています。



■障がい者雇用のこれから

このように障がい特性により、作業内容やサポート（介入）度合が個々に変わってきます。

障がい者社員の採用に当たっては、2週間程度の職場実習を何度か繰り返し、当社職場で働けるかを評価しています。

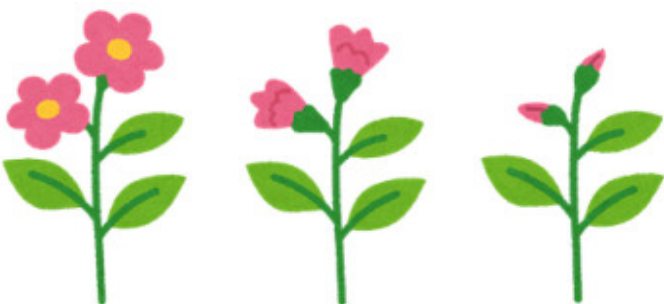
また管理者1名が、何名の障がい者社員をサポートできるかも考慮していますので、現状の管理者体制でサポートできる

かも検討します。

障がい者雇用率は、2021年4月までは、2.2%から2.3%へ引き上げられる予定です。ますます企業側の負担は大きくなるでしょう。

農場では野菜生産の品質や作業効率を向上させるために、障がい者社員一人ひとりの可能性を模索していかなければならないと考えています。

記事担当 七井



# 成功体験を重ねてスキルアップ

2018年、障がい者雇用の職域創生の一つとして、名刺作製内製化プロジェクトはスタートしました。誰が作業してもミスが起これず、作業効率の良いシステムを作る必要がありました。

名刺作製の一連の流れ（工程）は、①各部門から作製依頼を受け付ける。②納期までに受け付けた内容で印刷する。③出来上がった名刺を箱に詰める。④納品先へ納める。など様々な工程があります。これらの工程をすべて単純化し、パソコンでの作業工程は、マウスのクリックだけで作業が完了することを目指しました。そのためキーボードでの文字入力やコピー＆ペースト（貼り付け）の操作は、すべてコンピュータープログラムを使い自動化することになりました。

私は、管理者が作成したプログラム設計書を元に、コーディング作業（コンピューター言語でコードを書く）を担当しました。とはいえ、コンピュータープログラムは、全くの未経験。まずは、一般的な学習教材を使いプログラムの基本を学びました。「オブジェクト」や「プロパティ」など聞いたことのない専門用語がたくさん出てくるので、その意味を理解することからはじめました。コーディングで不明な点は、管理者に質問したり書籍やインターネットで調べました。

特に参考になったのは、VBA専門サイトに掲載されているサンプルコードです。「ファイルを開く」「VBA」等の文字列の組み合わせで検索すると、目的のサンプルコードが見つかります。

始めの頃は、コードの意味が理解できませんでしたが、プログラムは、正常に動けば結果が表示され、間違いがあればエラーが表示されるので、動いた・動かないと一喜一憂しながら作業を進めました。

管理者から指示された設計書は「申請書から一行づつ、文字列をコピーして別のシートにコピーする」「名前をキーに、別シートからメールアドレスを抽出する」などの単純な繰り返し処理をプログラム化することから始まり、次に、それらの処理に条件分岐を加えて行き、最終的に一つのプログラムが完成するものでした。作業を進めながらスキルアップができました。

プログラムが完成に近付いて来ると、それまで「点と点」だった知識が「線」につながり、そもそもプログラムでやろうとしていたことの全体像がイメージできるところになりました。こうなると、自身が取り組んでいる作業の「意味」が分かってくるようになります。すると、プログラムを作

ることの楽しさを感じるようになりました。

名刺作製プログラムをリリースした後は、IDカード作製プログラムをリリースしました。複雑で間違えやすい手作業を自動化する事で、誰でも効率的に作業できる環境が整いました。

現在は、アンケート集計・分析用プログラムの作成に取り組んでいます。日本語を分析するために、新しいプログラムの知識も必要になりました。新たな知識が加わる事で、プログラムの理解も更に深められるのではないかと感じています。

記事担当 佐野

```
Sub sample20
  Dim NewSht As Worksheet
  Set NewSht = Sheets.Add
  NewSht.Name = "新規シート"
  ...いろいろな処理
  Application.DisplayAlerts = False
  NewSht.Delete
  Application.DisplayAlerts = True
End Sub
```

サンプルコード



## 新入社員向けの研修

来年度の新入社員向けに、障がい者雇用に関する研修を実施します。

本研修では「なぜ障がい者を雇用するのか」「雇用率とは」など、障がい者雇用促進法の基礎知識と「障がい特性」「職場での配慮」について学習します。

厚生労働省が公表する「民間企業の障がい者雇用状況」によると、雇用障がい者数は、56万608・5人、実雇用率は、2・11%で、ともに過去最高を更新しています。

障がい者雇用促進法では、法定雇用率に対する対応を求められており、具体的には、常用労働者の2・2%以上に相当する障がい者の雇用義務となります。当社の場合、2020年時点で25人以上の雇用義務があり、今年度は達成しています。

法定雇用率は、2・3%へと見直しが行われる予定で、常用労働者数も増加傾向にあります。障がい者雇用は継続して必要ですが、障がいに関わらず、様々な人が自身の能力や希望に応じ、職業を通じて社会参加することは、人材不足は勿論、意欲的に仕事に取り組める職場風土や働き方の仕組みを整備するための施策として、欠かせない要件と言えます。

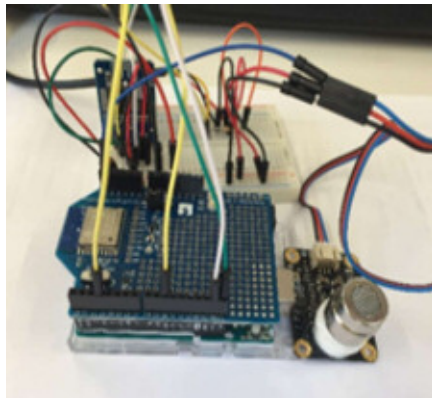
今後、障がいを持つ方と共に働く機会が増えるかもしれません。そのためには、階層別研修や農場の状況を通して、障がい者雇用の基礎知識を社内へ浸透させたいと思います。

## 生産性向上の取組み

ビニールハウスは、気候の影響を受けず年間を通じて収穫を期待できるメリットはありますが、効率的に生産量を確保するには、温湿度、照度、炭酸ガス(CO<sub>2</sub>)濃度、水温、液肥濃度等の環境値を、人工的に制御することが重要です。

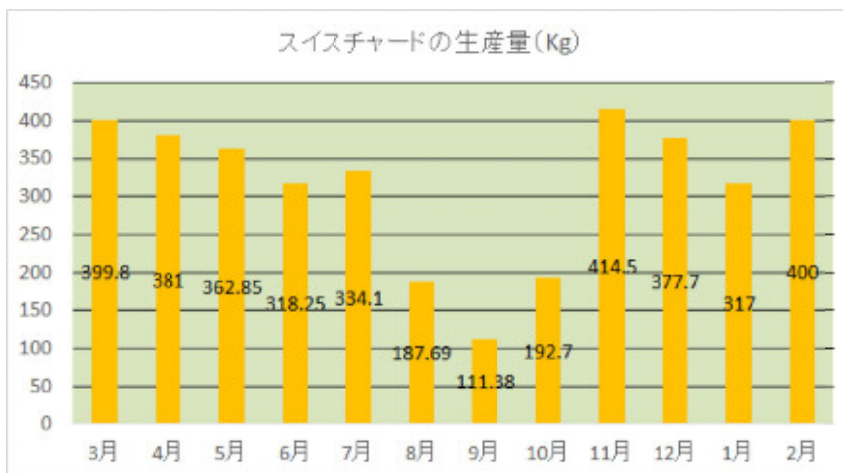
昨年夏から、ロボットによる温湿度、照度、水温の自動測定(データ収集)を開始していますが、この冬からは、CO<sub>2</sub>濃度測定機能も追加しました。

今後は、測定データを元にCO<sub>2</sub>濃度の調整を行う予定です。ビニールハウス内のCO<sub>2</sub>濃度を適正な値に制御することができれば、野菜生育の改善につながり生産量の増加が期待できます。



## 野菜生産状況

11月から第2ハウスの収穫が始まりました。3月も暖冬傾向が続くと予想されていますので、収穫量の増加が期待されます。



※広報誌の紙面(PDF)での発行は、今回で最終回です。来年度からは、ブログ(フォーカスNAVI)への掲載に形を変えてリニューアルします。今後とも宜しくお願いいたします。

